

平成26年度長野県農業大学校評議委員会ご意見・ご提言

長野県農業大学校

領域	評価項目	ご意見 ・ ご提言
	総括	<ul style="list-style-type: none"> ○ 農大改革1年目ということで、様々に取組んだという印象である。 ○ 来年度、より良い成果が出せるよう、本年度の反省を踏まえて取組まれたい。 ○ 卒業生の就農は農業高校においても極めて低い。農大での就農へ向けた取組みに期待したい。
教育活動	○ 授業内容の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習指導については、わかりやすい授業となるよう工夫がみられた。 ○ 如何に授業力をアップさせるか。①一つには、学生への匿名の授業評価の実施が良い。②二つには、試験時に 学生に授業の感想等を記入させ公にするのも良い。 ○ 学生アンケートの実施は、高校でも無記名で実施しているので参考にされたい。 ○ 授業研究(教授同士の授業見学)はやりにくいものである。実施方法を検討されたい。(先輩の授業を見るのはまだよいが、後輩の授業を見るのは気が引ける。)
	○ プロジェクト学習	<ul style="list-style-type: none"> ○ プロジェクト学習に経済性の検討を導入することは、良い。経営管理能力を全学生が習得するよう取組を指導願いたい。 ○ 生産物の販売体験は、消費者との接点であり大切である。頻度を高めるよう工夫をお願いしたい。農業法人では、社員研修として首都圏などのイベントに参加する例もある。 ○ 販売体験は、農大にあるものだけを売るというやり方ではだめ。農大祭などでは(格安なので)すぐに売れてしまい売り切れになることも多いと思う。商売の面からは終了時に1個残っているのがよいと言われる。協賛農家等より仕入れて売ることもよい方法なので検討されたい。
	○ 現場で使える知識、技術等への対応	<ul style="list-style-type: none"> ○ 農業機械のIT化が進む中、農機具のオペレーター技能やメンテナンス等基礎的な整備技術について身に付けるカリキュラムが組まれていることは評価できる。 ○ 泊まり込みで実施する農家体験実習の受入れ農家を探すのは大変だと思うが、重要な体験であるので引続き実施されたい。
	○ 各種資格試験	<ul style="list-style-type: none"> ○ 毒物劇物取扱者等資格試験の合格率が低い。就職後活かされる資格である。必要性を学生に理解して頂き、合格率が高まるよう更なる改善に取組まれたい。
	○ 実践経営者コースの定着	<ul style="list-style-type: none"> ○ 実践経営者コースが2年目となり、来年度は就農に向け重要な時期となる。7名の学生の就農に向け様々な活動などの情報発信に努め、農大をPRされたい。
	○ 効率的・効果的農場実習	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今年は、「既存コース1年生の実習時間が乏しく、農場の効果的な活用ができなかった。」とあるが、来年度の年間作付け計画と農業実習との整合に配慮し、農場管理に努めること。
	○ 就農率の向上	<ul style="list-style-type: none"> ○ 就農率向上に向け、引き続き取組まれたい。 ○ 就農者として必要な農業機械等の免許・資格取得などが授業カリキュラムに組まれていて良い。 ○ 農業法人の従業員も後継者だと考える。学生と農業法人の従業員との交流の場があっても良い。
	○ 進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学生の農家、非農家別の出身の違いによる進路選択に差があれば対応すること。
○ 寮生活による自立性、協調性	<ul style="list-style-type: none"> ○ 寮生活は上下関係などを学ぶ人間形成の重要な場である。来年度、寮が個室となっても自治会活動などを通じて自立性・協調性・社会性を養成するよう指導願いたい。 ○ 個室ということでプライバシーの面もあると思うが、生活習慣のルールが守られ、自立性・協調性が高まるよう、自治会や学生を指導されたい。 	